

## 2018 年度 立命館附属校 教師塾（新任研修） IX

附属校教育研究・研修センター

第 9 回教師塾を 12 月 11 日（火）に実施した。

講師は立命館大学キャリアセンター 次長 松原 修様を迎え、「立命館大学における進路・就職支援について」というテーマでご講演をいただいた。そして、附属校出身学生 4 人もスピーカーとして高校生活・大学生活と就職への取り組みについて登壇いただいた。

参加者は受講対象者 15 名（立命館中高 2 名、立命館小 2 名、立命館宇治中高 2 名、立命館慶祥中高 3 名、立命館守山中高 6 名、）であった。

### 【研修の記録】

産業構造や社会の変化が激しい現代において、大学においては自ら主体性を持ち、論理的に考え実行し、意見を発信し、他者と交流できる能力を育成することが求められている。また、国際的な競争が激化する中、多様性を尊重し、社会や文化的背景の異なる人々と協働して事業を遂行する能力を有するグローバル人材の育成も求められている。

大学をはじめとした高等教育の場で上記の能力や資質を育むためには、課外活動や海外留学を奨励するなどして、多様な人と交流し、コミュニケーション能力を基本としたコンピテンシーを向上させる必要がある。また、双方向型の授業や小集団教育、PBL(Problem Based Learning)などを通じて、他者と強調しながら問題を解決する能力を育むことが重要である。

昨今、就職状況は求人倍率が高止まりしている反面、大手企業と中小企業との求人倍率に大きな格差が生まれていることも特徴的である。短期決戦型の採用選考が行われている中、採用広報活動が解禁される 3 月より以前から、インターンシップを利用した採用なども増えている。インターンシップへの参加が増えることで大学での授業に影響が出ていることや、学生が自分たちの視野を広げる機会を持てぬまま青田買いを受けていることが問題視されている。

立命館大学キャリアセンターは、日本で初めてキャリアセンターの名を冠して学生の就職サポートを進めてきた。同センター調べでは、就職決定率は 96.8% という高い水準を維持し、同大学の学生の進路・就職納得度は年々高まっている。民間企業への就職支援を軸に、公務員試験などの難関試験対策や資格講座等も開いている。キャリアセンターのキャリア支援は「把握」「支援」「マッチング」の三つの柱から成っており、16 の基幹支援企画の他に、金融・マスコミ・総合商社などの希望者の多い業界や難易度の高い業界に向けた特定分野支援も行っている。特筆すべきはスチューデントネットワークの活用である。これはプレースメントリーダー・ジュニアアドバイザー・キャリアアドバイザーなどの名称で呼ばれる 3 回生ゼミの学生、内定学生および大学 OBOG の集団であり、現役学生の就職支援に向けてサポートを行う組織的取り組みである。

立命館大学における、進路・就職納得度の高い学生の特徴としては、早い段階から将来のキャリアイメージを明確に持ち、学生生活が充実しており、第一志望の進路に決定を果たしている、などの要素が挙げられる。そのような学生を多く輩出するためには、低回生からのキャリア形成支援や体系的なキャリア教育の展開を進めていく必要がある。

講義後半は、4 名の就職内定学生の話の伺った。彼

### 立命館大学における進路・就職支援について

立命館大学キャリアセンター  
松原 修

© 2018 Ritsumeikan Univ. Office of Career Services All rights reserved



ら彼女らに共通の特性としては、附属校における授業や部活動、海外研修等での経験をきちんと蓄積・反芻することによって、国際的な広い視野を獲得した後に、内省的に自己を見つめ、就職活動を進めている点が挙げられる。彼らの輝く未来を期待し、心より応援したい。

(記録 立命館守山中学高等学校 教諭 中條岳青)

(編集 附属校教育研究・研修センター 羽田 澄)

